



高等部2年 ^{いまだ けいた} 今田 佳太さん
 ボックスアート




ボックスの中に画像や絵など、場所や背景を考え遠近感を利用して立体的に再現しました。

中学部2年 ^{まつだ りゅうのすけ} 松田 隆ノ介さん
 夏の飛行機




スチレンボードに飛行機の絵を描いた版画で、インクを付けてパレンで刷る工程を丁寧にを行いました。

県立三郷特別支援学校には小学部・中学部・高等部があり、三郷市・八潮市・吉川市の3市の児童生徒が通学しています。ここに掲載する作品以外にも、学校のホームページで児童生徒の作品をご紹介します。




中学部1年 ^{ひるま たいち} 蛭間 大智さん
 スチレン版画「どんぐり」




スチレンボードを鉛筆等で掘ってインキを塗り、置いた用紙の上をパレンで擦って仕上げました。

小学部5年 ^{いしい かな} 石井 柑奈さん
 鬼のお面



白い紙粘土に赤い絵の具を混ぜて、赤鬼の顔を表現しました。つやまゆ毛や牙など色を付けて、形を整えてつけました。

小学部2年 ^{かわだ ゆうわ} 川田 悠羽さん
 はなび



ブラックライトの下で光るよう蛍光塗料で塗ったり、丸い画用紙に蛍光塗料を混ぜたスライムで小さい花火を作りました。


市長コラム 「価値ある未来を、共に」 問合せ 政策室 ☎982-5112 FAX981-5392

▼光希さんは3歳からスノーボードを始め、2018年、2019年のジュニア世界選手権を連覇。そして2022年1月に開催された「ワールドカップ」において世界2位となり、見事オリンピックに。▼2018年の「ジュニア世界選手権」で優勝した時、光希さんは中央中学校の3年生。優勝の報告に市役所を訪ねてくれた光希さんが、「結果を出すには、何よりも



オリンピック後に市役所を訪問していただきました。

有言実行のオリンピック
 ▼「すごい！高いジャンプ！」「頑張れ！」。市役所入口などに設置してあるモニターには、小柄な女の子が全身を使って、空に届きそうなジャンプをいくつも成功させる姿が映し出され、市民や職員が声援を送っていました。その女の子は吉川市在住の17歳、小野光希さん。2月9日から10日に行われた北京冬季オリンピック「スノーボード女子ハーフパイプ」に日本代表として出場しました。



高さが武器の小野選手

▼「地元吉川市の方々が大勢応援してくれたことが力になりました。次の4年は自分のやりたい滑りを目指す中で、結果を出せるよう、もっと練習します！」そう笑顔で語り、早速次の大会に向かう光希さん。「光希さんの考え方や努力を、ぜひ、吉川市の子供達に伝えてほしい」と私がお願ひすると、大きくうなずいてくれました。頑張れ、光希さん！

気持ちの強さが大事。小さな頃から目指していたオリンピックに必ず出ます！」と力強く語ってくれた姿が今でも忘れられません。▼あれから4年。まさに有言実行で、オリンピックの舞台に立った光希さんを、まるで父親のような気持ちで私も応援し、けがなく終わったことに安堵し、そして初出場世界9位となった結果を誇らしく思いました。